



JACET Hokkaido, JCA Hokkaido, & HELES

Joint Meeting 2021

JACET 北海道支部・JCA 北海道支部・HELES
2021年度 合同研究会

Photo: <http://bit.ly/2EzGB2a>

- Date** 日付: 第一夜 : 2022年3月8日(火)
第二夜 : 2022年3月9日(水)
- Registration** 受付: 18:00 -
- Study Meeting** 研究会: 第一夜 : 3月8日(火) 18:30 - 20:40
第二夜 : 3月9日(水) 18:30 - 20:45
- Venue** 会場: オンライン開催 (ZOOM を利用)
- Registration Fee** 参加費: 無料 (非会員含む)

《参加申し込み》

合同研究会へ参加を希望される方は、以下の URL より事前申込をお願いします。申込締切日は3月6日(日)とします。Pre-registration is required by Sunday, March 6.

<https://forms.gle/8ShyPuekK6SEtxAC9>

合同研究会の参加に必要な ZOOM の情報は、前日の3月7日(月)にEメールを通じて配信いたします。The ZOOM meeting information will be sent to the participants via email on Monday, March 7.

PROGRAM プログラム

第一夜：3月8日（火）

18:30 – 18:35 Opening 開会式

18:35 – 19:35 Workshop ワークショップ

「英語教育研究でエビデンスを『つくる』：メタ分析、再現性、追試」

浦野 研（北海学園大学）

19:35 – 19:45 Coffee Break 休憩

19:45 – 20:10 Presentation 1 研究発表①

「国際共修授業を通じた英語学習者の意識変化と授業に対する認識」

時任 洸揮（小樽商科大学）

伊藤 修汰（小樽商科大学）

平間 優太（小樽商科大学）

三ツ木 真実（小樽商科大学）

20:15 – 20:40 Presentation 2 研究発表②

「授業外の自律的な英語学習を促進する要因は何か ―言語交換アプリを使用する英語学習者の事例研究―」

松浦 凧咲（小樽商科大学）

三ツ木 真実（小樽商科大学）

PROGRAM プログラム

第二夜：3月9日（水）

18:30 – 19:30 Online Poster Presentations バーチャル・ポスター発表

「私のシラバス内覧会」

司会 長谷川 聡（北海道医療大学）

話題提供 「コミュニケーション心理演習」佐々木 智之（北海道科学大学）

「英米文学Ⅱ」竹内 康二（北星学園大学）

「介護コミュニケーション論」長谷川 聡（北海道医療大学）

「オーラルイングリッシュⅠA」目時 光紀（天使大学）

19:30 – 19:40 Coffee Break 休憩

19:40 – 20:10 Presentation 3 研究発表③

“Suggestions for Sound and Rhythm Instructions in English Lessons”

Kiwamu Kasahara（Hokkaido University of Education）

20:10 – 20:40 Presentation 4 研究発表④

「2021年度改定中学校英語教科書におけるコミュニケーション活動のタスク性比較」

北海道英語教育学会 Speaking SIG

山下 純一（函館工業高等専門学校）

臼田 悦之（函館工業高等専門学校）

志村 昭暢（北海道教育大学）

竹内 典彦（北海道情報大学）

照山 秀一（恵庭市立恵明中学校）

酒井 優子（東海大学）

小野 祥康（北海道科学大学）

中島 貴子（養老町立高田中学校）

三澤 康英（札幌龍谷学園高等学校）

20:40 – 20:45 Closing 閉会式

Abstracts 発表要旨

Workshop ワークショップ

「英語教育研究でエビデンスを『つくる』：メタ分析、再現性、追試」

浦野 研（北海学園大学）

最近では日常生活でも「エビデンス」ということばを耳にすることが増えてきたが、研究におけるエビデンスとは単に「根拠」を意味するのではなく、より厳密な定義に基づいて使われるべきものである。本ワークショップでは、まず研究におけるエビデンスの定義を示し、英語教育研究において何らかの提案を行うためにエビデンスを「つくる」ことの重要性について解説する。その上で、エビデンスを利用可能にするための手続きとしてのメタ分析の役割について紹介し、英語教育研究において（エビデンス構築を目的とする）メタ分析を困難にしている再現性の問題と追試の不足について触れ、エビデンスを作るために今後どのような研究が求められるかについて提案する。

Presentation 1 研究発表①

「国際共修授業を通じた英語学習者の意識変化と授業に対する認識」

時任 洸揮（小樽商科大学）

伊藤 修汰（小樽商科大学）

平間 優太（小樽商科大学）

三ツ木 真実（小樽商科大学）

研究の目的は、日本人学生とポーランドの現地学生との間で行われたオンライン国際共修授業に参加した英語学習者 3 名を対象に、授業を通じてどのような意識の変化が生じたか、また様々なスキルの向上や知識の形成が行われたかについて、オートエスノグラフィ―的視点から分析を行うことである。調査参加者 3 名の意識の変化を具体的に捉えるために、国際共修授業の事前と事後を振り返る形で個人別態度構造分析（PAC 分析）（内藤，2002）を実施した。また、分析の結果を踏まえ、3 名による相互インタビューの形で自らの意識の変化等をより深く探ることで考察を行った。その結果、自身の英語学習や異文化交流に対する関心の高まりが見られたが、同時に国際共修授業を展開する上での学習者目線の課題も見つかった。

Abstracts 発表要旨

Presentation 2 研究発表②

「授業外の自律的な英語学習を促進する要因は何か ―言語交換アプリを使用する英語学習者の事例研究―」

松浦 凧咲 (小樽商科大学)

三ツ木 真実 (小樽商科大学)

本研究の目的は、大学生英語学習者 1 名の過去の英語学習の経験及び実行中の自律的英語学習（言語交換アプリ使用）の経験に対する語りと分析を通じて、教室外の英語学習に自律性をもたらす要因を捉えることである。この研究では、インタビューを中心としたデータの収集と分析を行った。調査参加者がどのような英語学習を行っていた／いるかを具体的に捉えるために、個人別態度構造分析（PAC 分析）（内藤，2002）を実施した。また、それを踏まえ、参加者自身が言語交換アプリ使用について、どのように、なぜ、何を感じたかを語ることを通じて、自律的な英語学習に関わる要因を探った。分析の結果、英語学習に対するネガティブな認識の変化、言語学習パートナーの学習に対する態度等が参加者の自律的英語学習の実行と継続に繋がっていることが明らかとなった。

Online Poster Presentations バーチャル・ポスター発表

「私のシラバス内覧会」

司会 長谷川 聡 (北海道医療大学)

話題提供 「コミュニケーション心理演習」佐々木 智之 (北海道科学大学)

「英米文学Ⅱ」竹内 康二 (北星学園大学)

「介護コミュニケーション論」長谷川 聡 (北海道医療大学)

「オーラルイングリッシュⅠA」目時 光紀 (天使大学)

JCA 会員有志による次年度講義シラバスを数点公開展示・説明しながら参加者と意見交換する。公開シラバスは大学における語学教育・コミュニケーション教育関連科目を予定している。参加人数によりオンライン上でグループ分けすることもある。

Abstracts 発表要旨

Presentation 3 研究発表③

“Suggestions for Sound and Rhythm Instructions in English Lessons”

Kiwamu Kasahara (Hokkaido University of Education)

Instructions on written forms of alphabets are often conducted in JHS, but how about spoken forms? Systematic explicit instructions on English sound and prosody are often neglected in English lessons for novice or intermediate learners. This presentation introduces step-by-step sound and rhythm instructions to help your students enjoy English sounds and rhythm. They include four steps: a) phoneme level, b) word level, c) sentence level, and d) sound changes. Effective materials and activities such as imitating movie lines and singing songs are also shown. Let's share the ideas for your students to get used to spoken English!

Presentation 4 研究発表④

「2021 年度改定中学校英語教科書におけるコミュニケーション活動のタスク性比較」

北海道英語教育学会 Speaking SIG

山下 純一（函館工業高等専門学校）

臼田 悦之（函館工業高等専門学校）

志村 昭暢（北海道教育大学）

竹内 典彦（北海道情報大学）

照山 秀一（恵庭市立恵明中学校）

酒井 優子（東海大学）

小野 祥康（北海道科学大学）

中島 貴子（養老町立高田中学校）

三澤 康英（札幌龍谷学園高等学校）

北海道英語教育学会 Speaking SIG では 2008 年から英語教科書におけるコミュニケーション活動のタスク性研究に取り組み（臼田・志村・田中・白鳥, 2008), 特に中学校教科書については改訂の度に教科書間や改訂前後の比較研究を行い, これまでに多くの成果を発表

して来た。本研究はその最新版として、2021 年度に改訂された中学校英語教科書のコミュニケーション活動について、現在出版されている 6 社の教科書の内、1 年生用教科書を分析対象とし、臼田他(2008) で開発されたタスク性判断基準の最新版である、臼田他(2014) の基準を採用して分析を行い、教科書間のタスク志向性について比較した。また、開発から 10 年以上経過してタスク性判断基準についての改訂を提案し、新基準による分析の妥当性についても検証する。

ZOOMに関するお願い

- ① Zoomで参加する際、表示されるお名前を参加申込の際に登録したお名前でご参加ください。名前の変更方法は以下のリンク先をご覧ください。
<https://symphonict.nesic.co.jp/workingstyle/zoom/change-name/>
- ② 発表者を除き、マイクは原則「ミュート」にしてください。ビデオは任意とします。
(Q&Aタイム等については、司会者の指示に従ってください)
- ③ Zoom画面の録画、撮影は禁止させていただきます。
- ④ データ量が増えて音声品質に影響を与える可能性がありますので、バーチャル背景は事情がある場合だけお使いください。
- ⑤ ご質問やご意見は、Zoom画面の下のチャットに随時書き込んでください。
(全てのご質問にお答えできない場合がございますのでご了承ください)
- ⑥ 機器や回線の不具合等によりご視聴いただけない場合や途中で終了する場合がございます。その際にご容赦願います。

《お問い合わせ先》

- ◆ JACET北海道支部事務局
目時 光紀 (天使大学) metoki0702 [@を入れる] gmail.com
- ◆ JCA北海道支部事務局
長谷川 聡 (社会福祉法人アンビシャス) hasepy55 [@を入れる] gmail.com
- ◆ HELES事務局
志村 昭暢 (北海道教育大学) shimura.akinobu [@を入れる] s.hokkyodai.ac.jp